

# あきる野民報

発行責任者/松平重幸 TEL & FAX 558-0718

住民の利益をまもり、「住民こそ主人公」のあきる野市政実現をめざして!

2008.6.22 No.489(毎月2回発行)

## あきる野市議会傍聴記

# “ママ”が見た6月市議会

# 初めて議会を傍聴しました!

たばた あずみ

もつと、若い人が議会に――

まず違和感があったのは、議員は男性ばかりだということ。女性は3人だけ。若い人も少なく、私のような世代の女性はいません。市民の代表にこんな偏りがあるって、大丈夫かしらと思いました。

質問は全員がするんじゃないの

24人も議員がいて、質問するのは16人。後の8人は、市政に問題がないと感じているのでしょうか。質問の内容は、中にはなるほどと思うものもありましたが、

多くは的外れと感ずるものだったり表面的な「良い町」作りを取り繕うもので、この人たちは、本当に市民の声を聞いて、議会に臨んでいるのだろうかと思いに思いました。

答弁のたびに登壇する人がいちいち議長に頭を下げるのが不思議でした。議長が特別えらいわけでもなし、時間の無駄では。

「国が決めた事は粛々と」って?

影山議員の後期高齢者医療制度に関する質問で、市長が「国が決めたことなので、市行政としては粛々と実行するのみ」それが我々

国が実施が至らないものだった場合には、人々に悪影響が出ないようにフォローし、国に改善させるのが都・市行政など、末端の仕事ではないでしょうか。国が決めたことをやるだけなら、市長も議会もいりません。市職員だけで十分です。

残念ながら、傍聴者はとても少なく、ほとんどの時間は一人二人でした。

人々をフォローし、国に改善求めるのが市の仕事では?

市民はもつと議会を傍聴する必要がある……

質問の有無や、内容、会議中の態度など、わたしたち有権者は、もつと議会を見るべきだと感じました。自分の投票した人が、ちゃんと働いてくれているか、

見なくては、権利でもありませんが、投票した以上、義務でもあるでしょう。市は、誰もが議会を傍聴できるような改善策は示されませんでした。財政的なことが大きな理由です。▼狛江市では現在の市長が就任する前、前市長の不祥事でたくさん借金がありました。現在の矢野市長は税金の使い方を根本的に切り替え、子育て支援や福祉の街づくりにとりくんでいます。あきる野市でも早急な改善が望まれます。(山根)



## なんとかしてよ! 切実な市民の るのバスの増発。

あきる野市が、市内循環バス「るのバス」を運行開始してから9年目になります。この広いあきる野市をいまだに、たった1台で運行しています。三多摩22市で循環バスを運行していますが、1台というのはあきる野市だけです。

隣の狭い羽村市でも3台、立川市4台というように5台前後が圧倒的です。

## 日本共産党市議団のアンケートに寄せられた「るのバス」についての声

- 立川に行ったら、市の循環バスが日曜日にかかわらず動いていてすばらしかった。土・日も走らせるべきです。当市は遅れています。行きたいところに行くのに長い時間乗っていなくてはならなくて不便です。
- 公民館、ふれあいセンター等、
- いまの路線は秋川地域中心で

どの地区からもいけるように運行してもらいたい。

「るのバス」を増やしてほしい。

利用者が少ないのではなく利用できるのです。本数の少ない時刻表を見てひどすぎます。小さい車でも良いと思います。

す。五日市地域の戸倉、十里木、養沢地域こそ過疎化対策を考えて路線を延伸してほしい。  
●いまは「1台だけ、小さくていいからもつと台数を増やしてほしい」  
(その他「るのバス」に対する切実な要望が多数寄せられています)



たばた あずみ

むすこには器用になってほしくて、2歳前から、食事時はせっせとフォークを持たせました。彼はフォークを使おうとしてはポロポロこぼし、箸を使いだしても7歳頃までこぼし続け、9歳の今も変な持ち方です。

むすめは食が細く、我は強かったので、きげんよく食べてくれさえすればよく、3歳になっても手づかみでした。それが意外にこぼさず、4歳頃に使いはじめた箸はたちまちそれらしく使えるようになりました。

ちびもやりたい放題の手づかみ食べ。当時からあまりこぼさず、上の子の影響で早くも箸を使うようになって、上手に食べてます。

そういうわけでこれからも、なるべくこどもの邪魔をしないように気をつけようと思っています。

(08.6.22)

連絡先は☎550-6674

## 「温泉問題を考える会」が近く市民集会開催を準備。

「瀨音の湯」開業一年の事業報告書出る

議事に報告された報告書によると、来館者予想の19万人を超えて、24万人の実績を上げ、当初予想利益とほぼ同等の利益が出たとしている。

しかし、市民レベルの目で見ると、開業当初から新たな設備投資が市民の税金から数千万円の単位でつき込まれており、また人件費の計画を上回る支出など疑問点が多い。

「温泉問題を考える会」は、市の担当部局と6月25日に面談し、細目の資料の開示を求めながら問題点を明らかにします。

## 「瀨音の湯」開業一年の事業報告書出る

かにし、その結果をまとめ、市民に報告するニュースを発行しながら、市民集会を8月はじめに開催する予定で準備をすすめています。

憲法九条は、私の心の中心には戦中戦後の混乱期の中に生まれてきたように思います。自然に心の中にあつたように思います。その時代の日常を思いおこすとほんとうにいまでは考えられない有様でしたから……。

大人たちは真剣にそれを行っていたのです。私はそれを「どうして?」「何で?」と、いまの時代の子供達のように聞けないのです。

もし母にそれを聞くと、子どもはそんな事は聞くものではない」と、一言で駄目と叱られてしまいました。その時代の言葉に「壁に耳あり障子に目あり」と何処にスパイがいて聞かれていたのかからないう言葉があり、子どもでさえも自由にもが言えない時代でした。

大人になって、都心へ出て暮し、生まれ育った乙津に帰ってきて八年目になります。いまここに暮して驚いているのは、戦後六三年にもなるとういのに都内

とは本当にちがうのです。考え方が違うのです。いろいろと活動もしようと考えておりましたが、話があいまいでした。高齢者がほとんどで、若者が少ない家を出てしまっています。この日本はどうなるのかと本当に心配です。目を、心の目を開いてほしいものです。

## 心の目を開こう！憲法9条

乙津在住 栗原美也

## 「憲法まもれ」——新たな出発にむけて⑭



戦時下に発行された子ども向け週刊誌



絵手紙／戸沢典子さん・瀨戸岡在住

物価高安売りスーパー大繁盛 西川昇  
韓国で米産牛拒否デモ百万 西川昇  
苦闘せし多書ニマルクスいま嘆くか 松籟坊  
たった一台のバス繻ひ今日も行く 松籟坊

## 歴史探訪

### 第69回 唐沢武一さんに聞く 昔の二宮 ⑪



五日市街道(二宮神社北側)

「秋川市戦争を語りつくす会(代表 永井美恵子)の会報によると、当時の二宮の戸数は二七二軒、出征兵士を送り出した家二八軒となっています。多い家では五人を出征させ、終戦前二年間では高齢出征も見られ、四十四才で出征した人もいました。戦死者が四十五名、殆どが終戦直前の死であり出征数に対して三〇%に達したといわれています。

昭和二五年朝鮮戦争が始まり、横田基地を護衛するための高射砲陣地が東秋留北側の台地にできました。東秋留村の全耕地の四・七%を接収されたといえますから、農民の影響は多大であったと思います。「ファーマーズセンター」の西、今の《花がき》の辺りに機関銃を備えた高射砲四門の陣地を米軍が造りました。敵機による横田基地を守るためのものが、米軍兵士の住宅用団地も東秋留駅の北側にありました」

米軍兵士による歓楽街と化した二宮は、一方で麻薬や暴行事件などによる風紀が問題となり、村民の反対運動で昭和三二年に接収が解除されています。

(この項終り)  
草花 木崎秀治

◆唐沢武一さんの聞き書きは今回で終ります。地域の昔の歴史・伝説など聞かせて下さる方がおりましたら紹介して下さい。

## 俳句

のりすこす昼の電車や目借り時 (昭代)  
目も角も土せばつかれたつむり (昭代)  
土器も貝も眠らせ田水張る (勝代)  
筍をつきつきと刺き湯のたきり (かほる)  
(やす子)

玄関の壺へ卯の花客を待つ (和恵)  
落書の残る机や柏餅 (つや)  
耐震化瓦替えして風薫る (静子)  
遠目して匂ふ紫桐咲けり (淑子)  
筍の皮に梅千添え眺め (富子)  
五右衛門の風の楼閣走り梅雨 (香治)